

「少しさかのぼって、子どもの頃の話も。サッカーを始めたきっかけから。」

幼稚園5歳の頃に、小郡東野（少年サッカークラブ）でサッカーをしていた6つ上の兄の影響です。兄の試合をいつも見ていて、それでサッカーをやりたいなど思いました。そして、筑紫野ベレッツサ横のグラウンドで始まったアビスパのスクールに入りました。その後、小学生になって小郡東野に入り、6年間やりました。

「小郡東野での思い出は？」

プレー中、僕がやってほしいプレーを味方がしてくれなくてイライラした時に、監督に怒られて「うまくいかないからといってイライラするな」と言われたことは覚えています。

「石丸監督ですね。「一人だけがずば抜けていてもダメだ」ということを教えてくれたのでしょうか。」

そうですね。それ以来、味方にこうしてほしいと伝えることや、いいプレーには「ナイスプレー」と声をかけたり、失敗しても励ましたりするようにしました。周りのために声かけで気分を乗せることを心掛けました。

「中学から、アビスパのクラブチームに入ったんですね。」

学校が終わって香椎浜まで電車来ていました。19時から21時まで練習し

て、22時ぐらいに家に帰る生活でした。それから勉強……

「授業中にやってないです(笑) 授業中にやってた？スポーツするなら時間を言い訳にできない？」

はい。授業中にしていました！



Q

小郡でよく行った場所は？

A 東野小の横のグラウンド（東野地域運動広場）。毎日のように通いました。

「クラブの練習で何が一番自分のためになった？」

中学生になると、個人の力でなくチームで戦わないと勝てない。チームとしてどう戦うのか、コミュニケーションをとって同じイメージを共有しゴールに向かうというチーム感覚、そういうサッカー観が身につきました。

「個人的なトレーニングは？」

ドリブル。よく一人で練習していました。ドリブルが好きでした、小さいころから。

「では、一番嫌だった練習は？」

走り。3キロを2回、週に1度走るんですが、その曜日は嫌でした(笑)でも、高校でもよく走りましたが、それが現在の精神力、体力の基礎になったかなと思います。

「高校では全国大会で3位。高いレベルでの経験、どんな心境でしたか？」

上手な先輩達と試合ができたことはとてもプラスになり、その頃にはプロになるという思いがありました。18歳から日本代表になるのを目標にやってきました。18歳から日本代表になるのを目標にやっていました。

これから

「その思いは今に続いていると思いますが、今シーズン、また来シーズンに向けての目標を教えてください。」

試合に出ても出なくてもチームに貢献できるような力をつけていきたいです。

来シーズンは試合に出る時間を増や



©avispa fukuoka

Q

英語は得意？

A 苦手ではないです。得意と言えるように頑張りたいです

して、自分の持ち味であるドリブルをレベスタ（レベルファイブスタジアム）で発揮出来たらと思います。最後に、小郡にはサッカーだけでなく、いろんなスポーツをしている子どもたちがいます。子どもたちに向けてメッセージを。

これまで全力でやってきた事が経験となり、今の自分に繋がっているの何事も全力でやるのが一番かな。スポーツ選手にならなくてもそれが生きてくると思います。それはその子の経験になるので一生懸命にやってほしいですね。

「夢を叶えた北島選手、これからの活躍を楽しみにしています。今日はありがとうございました。」

期待に応えられるように頑張ります。ありがとうございました。